

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
老年期障害作業療法治療学		必修	2	3	前期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
中西 康祐	C310	knakanishi	水曜日 5時限		
授業の目的・概要	老年期障害の作業療法介入を実践するうえで必要な基本的知識を学び、具体的治療介入のポイントを理解し、発想力を養うことを目的とする。なお、授業はwebによるオンラインも活用して理解し、その後、メディアを通じたフィードバック等により理解を深める。				
学習上の助言	老年期および認知症の治療に必要な基本的知識をもとに、具体的な治療介入を展開できる技術を習得する基礎を学ぶ。これまで学んだ老年期および認知症の知識が土台になるため、教科書や配布されたプリント等を丁寧に読み込むことをお勧めする。				
教科書	高齢期作業療法学 第3版 著：松房利憲、新井健五 出版社：医学書院 高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 第2版 著：守口恭子 出版社：三輪書店 必要に応じてプリントの配布、映像資料を用いる。「2冊指定」				
参考書	認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント 第2版 著：佐土根朗 他 編：山口晴保 出版社：協同医書出版社				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	老年期および認知症の治療に必要な基本的知識を理解し、説明できる。			HSU(3)、OT(2)(3)	
②	老年期のさまざまな事例から治療介入のポイントを理解し、応用につなげられる。			HSU(3)、OT(1)(2)(3)	
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	「高齢者の生活の見方」「作業療法士が急性期・回復期・生活期・終末期で求められるもの」について学ぶ。 フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：提出期限内に実施	印刷教材等での授業	1. 「高齢者の生活の見方」について要点をまとめる。 2. 「作業療法士が急性期・回復期・生活期・終末期で求められるもの」について要点をまとめる。	3	
2	「一般高齢者の作業療法」「介護予防の作業療法(特に介護予防と地域包括支援システムを中心に)」について学ぶ。 フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：提出期限内に実施	印刷教材等での授業	1. 「一般高齢者の作業療法」について要点をまとめる。 2. 「介護予防の作業療法(特に介護予防と地域包括支援システムを中心に)」について要点をまとめる。	3	
3	「認知症に対する作業療法の位置づけ」「疾患別の作業療法の視点」について学ぶ。 フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：提出期限内に実施	印刷教材等での授業	1. 「認知症に対する作業療法の位置づけ」についてまとめる。 2. 「疾患別の作業療法の視点」のAD、DLB、VD、FTD、それぞれの介入時の重要なポイントをまとめる。	3	
4	高齢期作業療法の実践事例「健康高齢者のケース」「要支援者のケース」「要介護者のケース」について学ぶ。 フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：提出期限内に実施	印刷教材等での授業	1. 健康、要支援、要介護の高齢者への支援に際して必要な視点をまとめる。 2. 作業療法士としての役割についてまとめる。	3	
5	「軽度認知症」に対する作業療法について学ぶ。 フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：提出期限内に実施	印刷教材等での授業	1. 軽度の認知症高齢者への支援に際して必要な視点をまとめる。 2. 軽度の認知症高齢者に対する作業療法士としての役割をまとめる。	3	
6	「中等度認知症」に対する作業療法について学ぶ。 フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：提出期限内に実施	印刷教材等での授業	1. 行動症状の原因について要点をまとめる。 2. 「昔取った杵柄」の効果の要点をまとめる。 3. 作業療法士が中等度の認知症高齢者に介入する際の注意点について、要点をまとめる。	3	

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科/旧カリキュラム】

7	「重度認知症」「終末期」に対する作業療法について学ぶ。 フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：提出期限内に実施	印刷教材等での授業	1. 重度の認知症高齢者の「寝たきり状態の要因」「つくられた寝たきり状態から真の寝たきり状態へ」「多側面からのアプローチ」「生活圏の拡大」について要点をまとめる。 2. 終末期の「アクティビティのもたらす心理的効果」の要点をまとめる。	3
8	・アルツハイマー型認知症（AD）と作業療法の関連を学ぶ。 ・血管性認知症（VD）と作業療法の関連を学ぶ 事前課題にもとづき授業を実施する。	同時双方向型授業	教科書の該当箇所を読むとともに、発表担当課題を実施しておくこと。	1
9	・レビー小体型認知症（DLB）と作業療法の関連を学ぶ。 ・前頭側頭型認知症（FTD）と作業療法の関連を学ぶ 事前課題にもとづき授業を実施する。	同時双方向型授業	教科書の該当箇所を読むとともに、発表担当課題を実施しておくこと。	1
10	・軽度認知障害（MCI）と作業療法の関連を学ぶ。 ・中核症状に対する援助について学ぶ 事前課題にもとづき授業を実施する。	同時双方向型授業	教科書の該当箇所を読むとともに、発表担当課題を実施しておくこと。	1
11	・行動・心理症状（BPSD）に対する援助について学ぶ 事前課題にもとづき授業を実施する。	同時双方向型授業	教科書の該当箇所を読むとともに、発表担当課題を実施しておくこと。	1
12	・保たれている機能に対するアプローチについて学ぶ 事前課題にもとづき授業を実施する。	同時双方向型授業	教科書の該当箇所を読むとともに、発表担当課題を実施しておくこと。	1
13	・基本的な生活に対する援助について学ぶ 事前課題にもとづき授業を実施する。	同時双方向型授業	教科書の該当箇所を読むとともに、発表担当課題を実施しておくこと。	1
14	・IADLに対する援助について学ぶ 事前課題にもとづき授業を実施する。	同時双方向型授業	教科書の該当箇所を読むとともに、発表担当課題を実施しておくこと。	1
15	・余暇活動・対人関係・環境調整に対する援助を学ぶ 事前課題にもとづき授業を実施する。	同時双方向型授業	教科書の該当箇所を読むとともに、発表担当課題を実施しておくこと。	1
試	定期試験			

達成度評価

総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		90	0	10	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	40	0	2	0	0	42
	思考・推論・創造する力	40	0	2	0	0	42
	協調性・リーダーシップ	0	0	1	0	0	1
	発表・表現伝達する力	0	0	2	0	0	2
	コミュニケーション力	0	0	1	0	0	1
	取組みの姿勢・意欲	0	0	1	0	0	1
	問題を発見・解決する力	10	0	1	0	0	11

評価のポイント

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
試験	①	学期末に定期試験を実施して評価する。試験は、授業で学んだ教科書、および発表内容等に基づく問題を出題し、理解度を問う。	定期試験後に答案用紙を一時返却し、質疑の機会を設ける。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
レポート	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科/旧カリキュラム】

成果発表	①	✓	第 8 回～15 回は担当になった課題をグループでまとめパワーポイントで発表する。 成果発表の成績基準は以下の通り。 ・キーワードと専門知識を正しく用いている (3 点) ・ポイントを整理した構成で理解しやすく解説できる (3 点) ・解説を深めるために適宜文献を引用できている (2 点) ・発表までに担当教員に質問し内容を深められる (2 点)	授業での討議を通して適宜フィードバックを行う。
	②	✓		
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
備 考				
<p>8 回目からは Teams を使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限の Wifi 環境を推奨する。今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更もあり得る。</p> <p>パワーポイントの課題提出は、発表前日の 12 時までに行うこと。期限を過ぎた場合は受け取らないので、期限を厳守すること。</p> <p><b>教員の実務経験：</b>本科目を担当する教員は作業療法士として在宅・施設の老年期領域において 10 年以上の実務経験を有している。</p> <p><b>実践的授業の内容：</b>テキストと併せて臨床における治療で得た知見に基づき講義を展開する。</p>				